

# 東成の歴史

シリーズ  
No.10

## “ひがしなりの周辺”

大阪府文化財愛護推進委員  
東成区コミュニティスクール“歴史シリーズ”講師

友 田 譲

東成区西域の周辺部には、古い地名や歴史的なことがらがあります。

JRの「鶴橋」の名称は古く、日本書紀に「仁徳天皇14年(323年)11月橋を猪甘津に造り、すなわち基処を号けて小橋と曰う」と記され、この橋は平野川に架けられた日本最初の橋である。この橋の周辺に鶴がたくさん群生していた処から、鶴の橋と呼ばれるようになり、現在桃谷商店街東のはずれに記念の碑が建っています。

又「玉造」の地名も、上古曲玉づくりを職業とする玉作部タマツクリベの一族が、集団居住していたところから、この玉造の名が起り、市内最古の地名の一つとされています。

天王寺さんとして市民に親しまれている四天王寺は、日本最古の寺院といわれている。この寺は用明天皇2年(587年)玉造岸上に築かれ、のち推古天皇3年(593年)難波の荒陵(現在地)に移建されたと伝えられ、この玉造岸上は現在の森の宮附近とされています。

この森宮附近は古代の遺跡も発見され、森の宮ピロティホール附近には、縄文式(晩期)の上器や、弥生式(初期)の土器とともに、広範囲の貝塚が発見され、当時の人骨三体も発掘され、大阪市民第一号二号と名付け、共にピロティホール地下の展示室に保管し、3,000年前の姿を再現されています。

大陸と交易をもつようになった我が国に、多くの外国使節が来朝するようになり、これらの使節の止宿場所として「難波館」と言われた当

時の迎賓館ともみなされる館が、玉造附近にあったと伝えられ、今も三韓館跡、唐居町として地名を留めています。

すこし時代が降りますが戦国時代、細川越中守忠興の屋敷跡に当時の井戸が現存し、越中井戸と呼ばれています。忠興の夫人玉子が、慶長6年(1601年)7月7日、夫忠興の留守に石田三成の兵に囲まれ、37才の命をはてたところで、この玉子は熱心なクリスチャンで細川ガラシャ夫人として世に知られて、現在井戸のかたわらに辞世の歌碑が建っており、大阪府の史跡に指定されています。

この史跡のある細川屋敷のあった当時の大坂冬の陣の慶長年間、現在の城東区である、今福、鳴野合戦の古戦場も、攝津國東生郡ヒガシナリであり、大阪城も東生郡生玉庄内に築城された城であったところから、その周辺に位置する当区も、冬・夏の陣ともにその戦乱の渦中にあったことと想像されます。

このように周辺には上古より中世に至るまでの史跡や名跡が伝わっている“ひがしなり”が、私たちの住む郷土「東成区」として、大正15年に大阪市に編入され、今年で早や77年になります。

過去10回にわたり、“東成の歴史”と題し、区の生い立ちや、区内の名所旧跡を紹介する拙ないシリーズものでしたが、私どもの郷土の沿革を知る上で、いささかのお役に立てば洵に幸せです。

